

2019.8.31(土：晴れ時々曇り/山頂はガス)～9.1(日：晴れ一時雨)

■ルート：とよぬか山荘(シャトル)⇔奥額平橋(林道)⇔北電取水口(渡渉)⇔幌尻山荘⇔命ノ水⇔幌尻岳 2052m



■ 8.31(土:行動時間 10 時間 45 分)

4：00(宿発)→5：00(奥幌尻橋着)→5：10(発)→7：10(北電取水口着)→7：50(渡渉ポイント着)→9：00(幌尻小屋着)→9：40(発)→11：30(命ノ水着)→12：55(幌尻山頂着)→13：35(発)→15：55(幌尻山荘着)

■ 9.1(日:行動時間 3 時間 40 分)

4：30(起床)→5：20(発)→6：20(渡渉ポイント着)→7：00(北電取水口着)→9：00(奥幌尻橋着)

8/31(土):とよぬか山荘、早朝 3：30 起床。吉田有希と合流。シャトルバスに≒ 1 時間揺られ、



終点の奥幌尻橋に着く。林道下の額平川はゴーゴーと心地よい音を立て流れている。林道を歩き出すも、睡眠不足で頭はボーッとしている。北電の取水口から額平川沿いに、時々右岸の川岸をへつりながら川上を目指す。歩き始めて 40 分ぐらいで渡渉ポイントに着く。ここで地下足袋に履き替え、額平川に入る。水量は案外少なく、膝下ぐらいで歩ける。下山者から幌尻山荘下でヒグマに遭遇！

の情報と、程よい冷たさに頭がシャキッとし、やっと気分が冴えてくる。クマよけの笛を響かせながら右岸、左岸への渡渉を何回か繰り返す。渡渉にも慣れた頃、不意に幌尻の小屋が見えてきた。

小屋番の青年が寝泊まりや食事のルールを色々説明してくれる。19：30 消灯！食事は小屋の外で！寝具以外の荷物は小屋の 1F の物置に！…。60 人ぐらい宿泊で早朝の出発者もあるから…なるほどね。合理的なしくみで管理されているのかな？ 早々に荷物の仕分けをやり、地下足袋から登山靴に履き替え、幌尻岳を目指す。岸上ペースは速いが、西川が付いていくので後ろもヒーヒー言いながら高度を稼ぐ。「命ノ水」場で水補給。冷たくて案外美味しい。尾根の上部に出ると視界が開け、風も涼しい。北東方向に端正なピラミッド型のピークは戸蔭別岳（1959m）幌尻岳は見えない。尾根を登り切り、稜線をしばらく行くと幌尻カールが大きく開けている。カールの中にナナカマダが少し色づいて秋近しの景観だ。紅葉の旬には素晴らしい景色が見られそうだ。稜線の南東側からガスが湧き出し山頂辺りを覆っている。風も冷たくなり視界も少なくなってきたころ山頂に着いた。100 名山記念の写真を早々に撮り、下山する。小田さんが少し山頂に粘って視界の晴れるのを待ったが幌尻はガスの中で終わった。岸上はガスの中を戸蔭別岳に向かう。周遊コースでの幌尻山荘合流計画だ。我々は再度、カールの景色を楽しみながら下る。行動時間はすでに 10 時間を超えている。皆さんタフで頑張りました。小屋に下りきり、小屋前のブルーシートで祝杯を挙げる寸前で岸上が下りてきた。無事合流で乾杯！

参加メンバー

CL:岸上 薫

SL:町田 修

金子 清

西川 徹郎

吉田 有希

小田さん (部外者)



9/1(日):早朝の冷たい額平川を登りと同じ渡渉を繰り返しながら下る。担ぎ上げた食料や飲み物を消化し、軽くなったザックで軽やかに川底を探り、飛び石を跳ねて下る。9 時 30 分発のシャトルバスでとよぬか山荘に向かう。

★リーダー所見(岸上)：メンバー全員の足が揃っており、CL として行動がしやすかった。やはり、町田さん・金子さんの大御所二人という山行は安心感がありました。まだ、あと 10 年は先輩方と一緒に、いろんな山に行きたい！

★おまけ：次の雌阿寒岳に向かう途中の宿で、幌尻岳アタックで終わる北海道は物足りないね。まだ、北海道の山を楽しみたいね。と、皆さんの意見が強く、次年度のプランが出来上がった。次年度以降の北海道継続もフィックスした。会

の名前は「北の愉快的仲間たち」。しばらく岸上ペースのハードな山行が続きそうだ。 2019 .9.3 町田 修/記